

防護ネットに張り替え

イオン 従業員ら 便ノ山の河津桜22本

紀北町のボランティアグループ「交流空間みやま」とイオンリテール東海・長野カンパ

ニー、マックスバリュ中部は7日、海山区便ノ山で合同の「紀北町育樹祭」を開き、4年前に同じ3団体が植えた河津桜の防護柵をネットに張り替えた。2社の従業員や内定の学生ら合わせて53人、交流空間みやまと



河津桜に防護ネットを巻くイオンリテールやマックスバリュの従業員ら（7日、紀北町便ノ山で）

町職員など20人が参加。河津桜は4年前に町営種まき権兵衛の里に近い県道添いの土手に18本、銚子川左岸に4本を植えた。当初はシカ害を防ぐ鉄製の箱型防護柵を設置したが、木が4歳以上になり柵が枝の成長を妨げているため、柵を取り外し木を傷つけないよう幹に直接巻く樹脂製防護ネットに取

り換えた。イオンリテール東海・長野カンパニークミユニケーション部の三石裕史さん（38）とマックスバリュ中部総合企画本部の片岡真理さん（30）は「紀北町は自然が豊かで、この活動は林業の大変さも理解できていい機会になる」と話していた。

参加者は約1時間の作業を終え、種まき権兵衛の里駐車場で町からアマゴの煙製焼き、アオサ汁の振る舞いを受け喜んでいった。

河津桜を植えた翌年の2012年からイオン環境財団（岡田卓也理事長、本部・千葉市）が3年間、紀北町で植樹活動を行い、便ノ山の町有林や国有林などに計1万5千本の広葉樹を植えている。